

経営一転語 60 会社の数字をどう見るか

皆さんは、おそらく、会社の会計担当者や税理士事務所から集計された「試算表」というものを、毎月ご覧になっていると思います。

そこには、売上がいくらで、経費がいくらで、利益がいくらで、ということが書いていると思います。

それを、どう感じ、どう読み取り、どのような手を打っていますでしょうか？

実は、事業経営に最も必要な情報は「傾向」であって、「断面」ではありません。

つまり、売上が伸びているか、減少しているか、経費が増加しているか、減少しているか、利益が増加しているか、減少しているかを見なくてはなりません。

会社の数字は、その月にどうだったかという「絶対額で見る」、「断面で見る」ことは言うまでもありませんが、それだけでは不十分なだけではなく、時には判定の誤りをおかすことになるので、心しなければいけません。

絶対額は大切です。

しかし、傾向というのは、別の意味で絶対額よりも大切であるということをお忘れてはいけません。

会社の中の数字は、必ず「傾向で見る」という態度をとり、事態を正しくとらえ、正しい判定とそれに基づく正しい決定をし、実践していかなければいけないのです。

<演習課題>

1. 過去三か月、過去一年間、過去三年間などという「時間のものさし」を使って、試算表や決算書の数字がどう変わっているかを見て考えてみましょう。